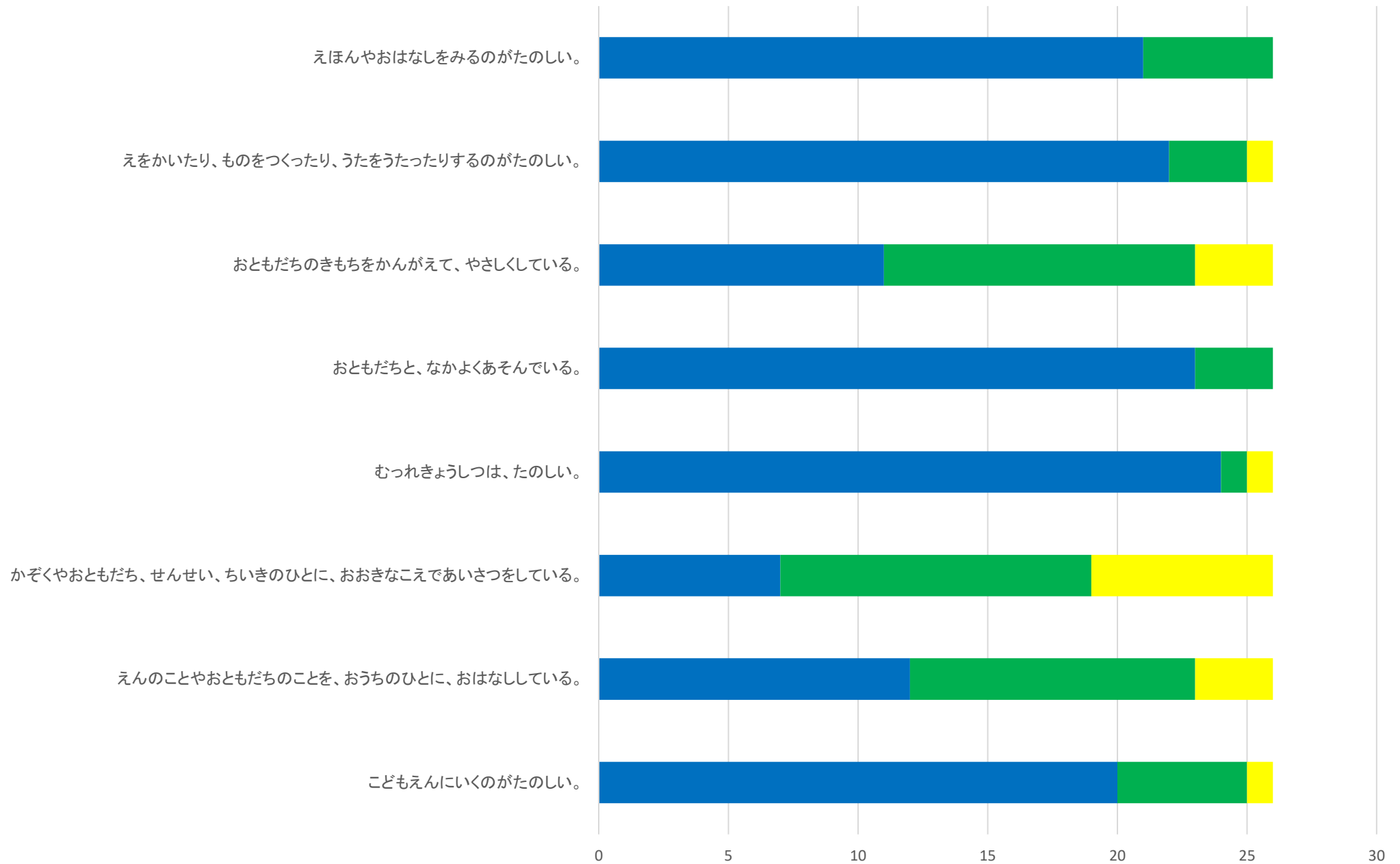


令和4年 2月に実施しました「こども園評価アンケート」の結果を
報告いたします。

	対象者数	回答数	%
5歳児 まっぼっくり組	28	26	98
3.4.5歳児 キンダー保護者	106	96	91
0.1.2歳児 ナーサリー保護者	53	48	91

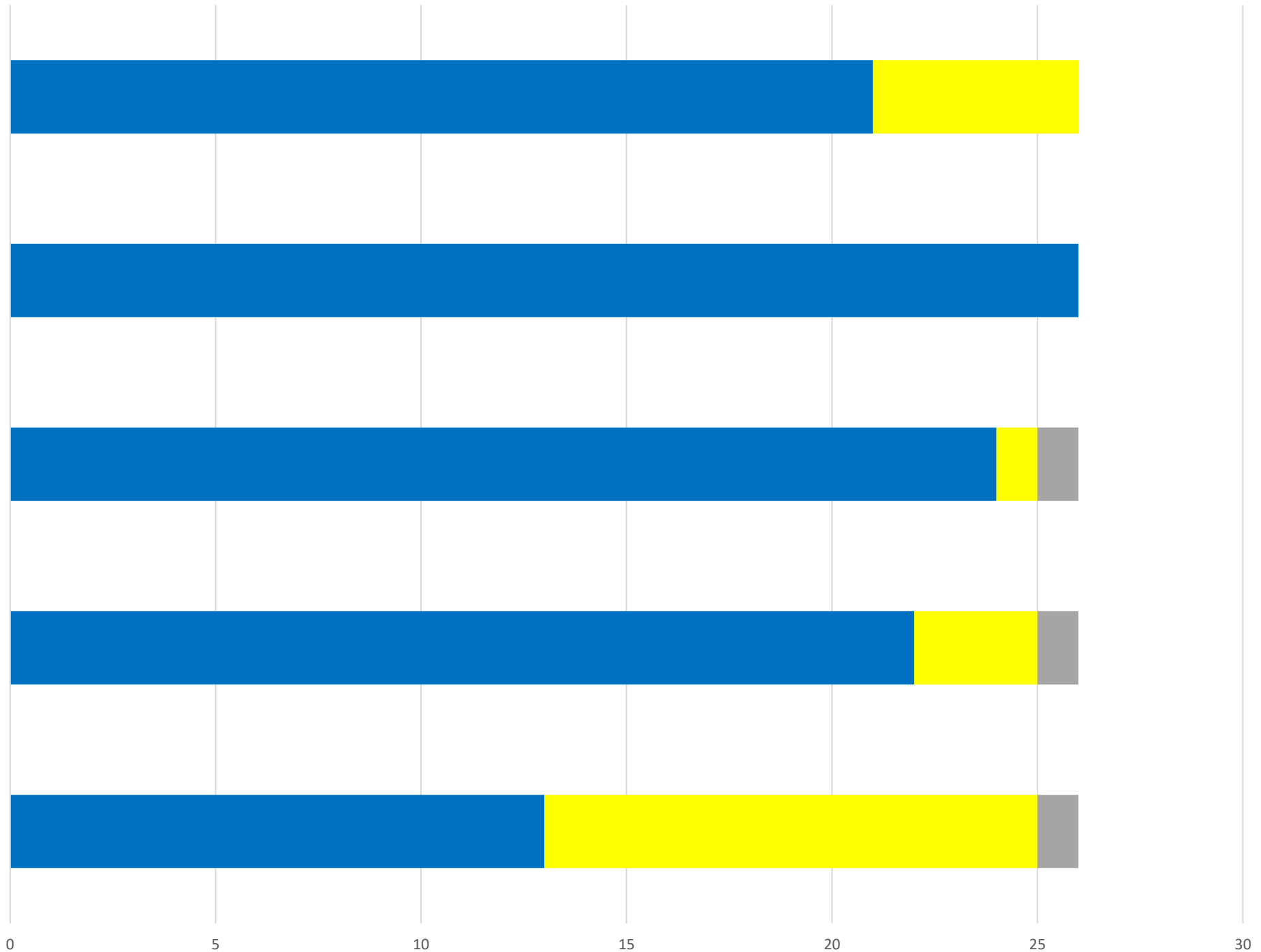
こども用(まつぼっくり組)

■ とてもそうおもふ ■ だいたいそうおもふ ■ あまりおもわない ■ おもわない



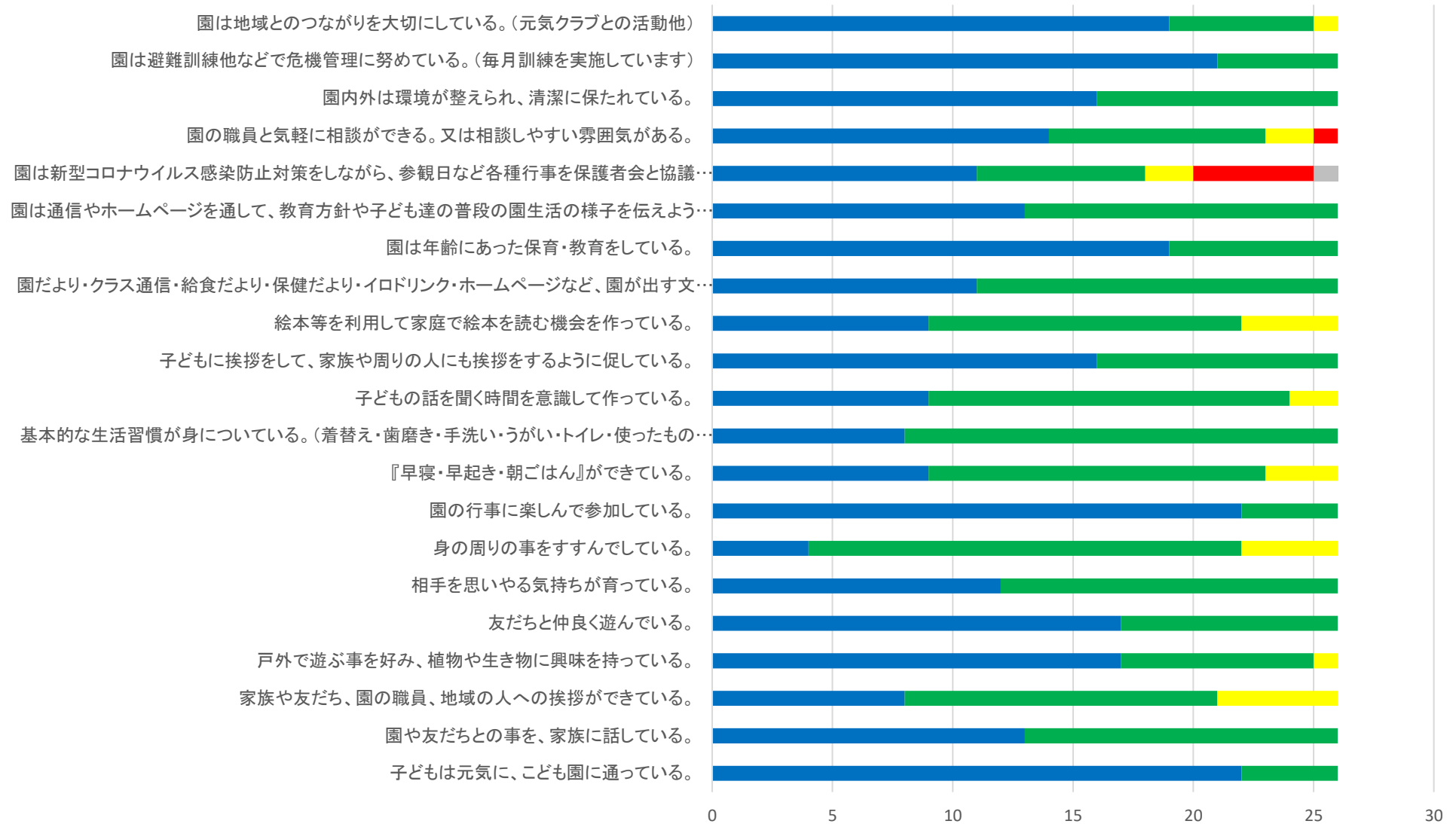
■ できる ■ できない ■ 無回答

つかったものをかたづける



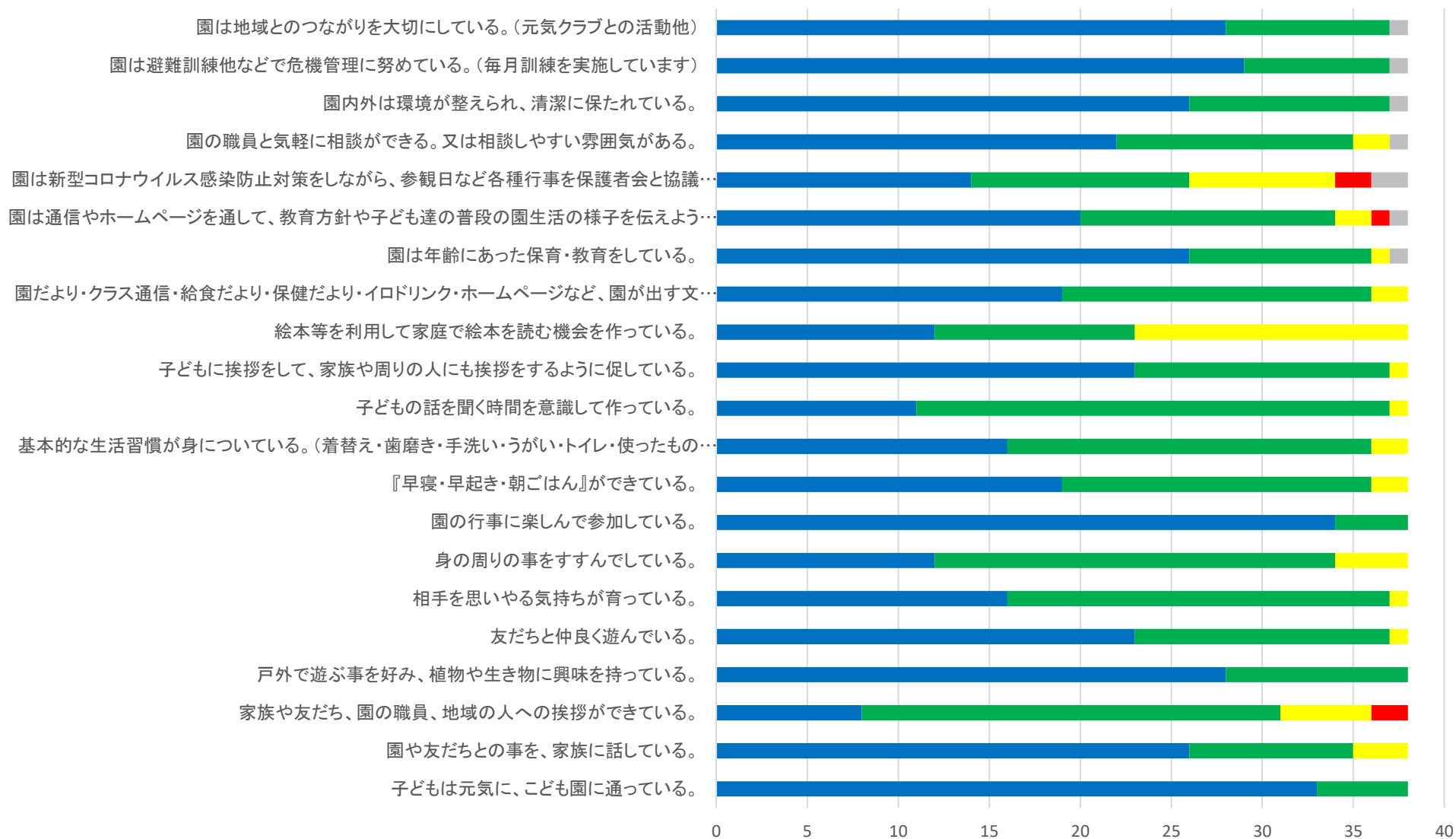
保護者(まつぼっくり組)

■ とてもよくあてはまる ■ だいたいあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない ■ 無回答



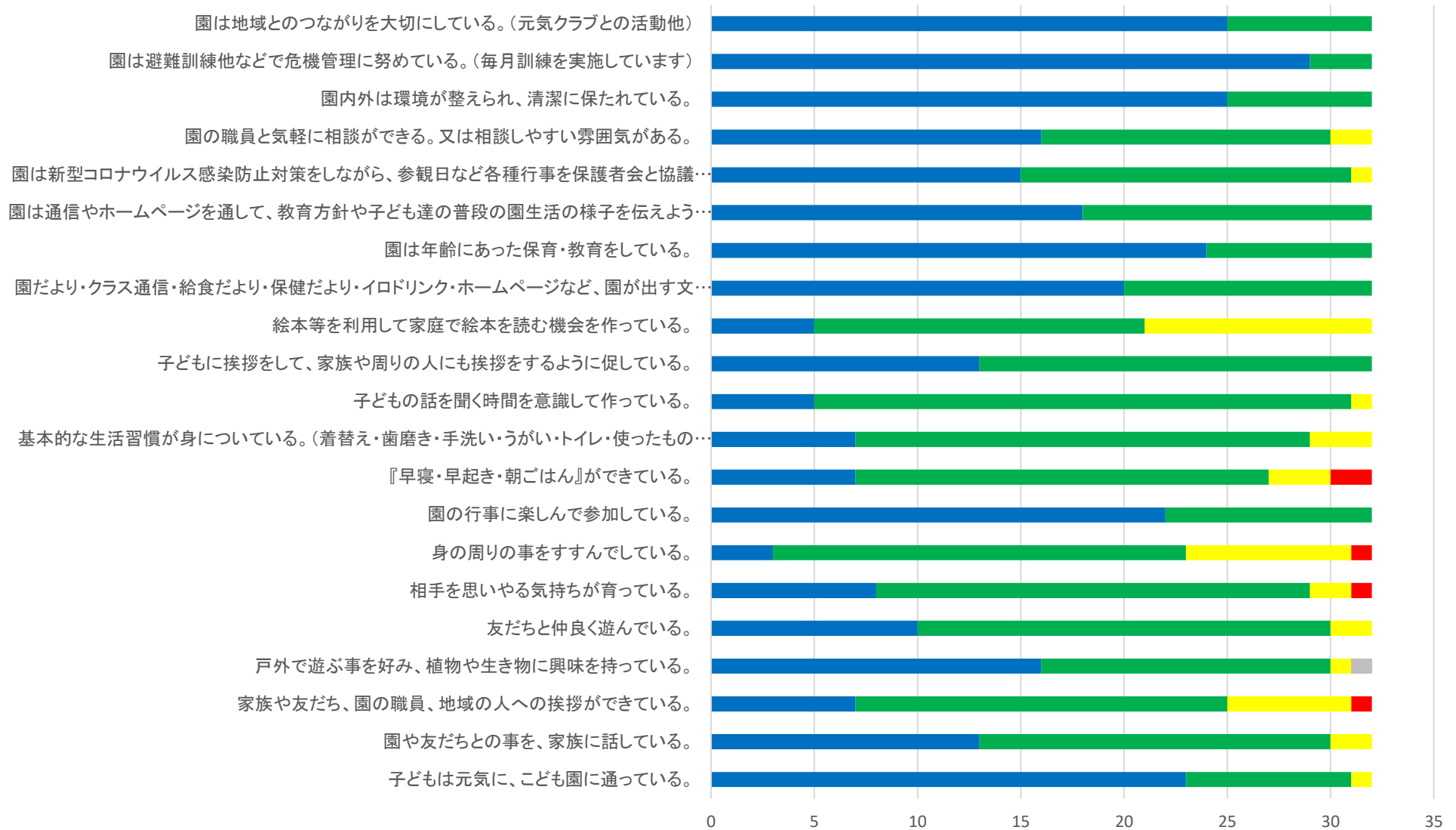
保護者(くるみ組)

■ とてもよくあてはまる ■ だいたいあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない ■ 無回答



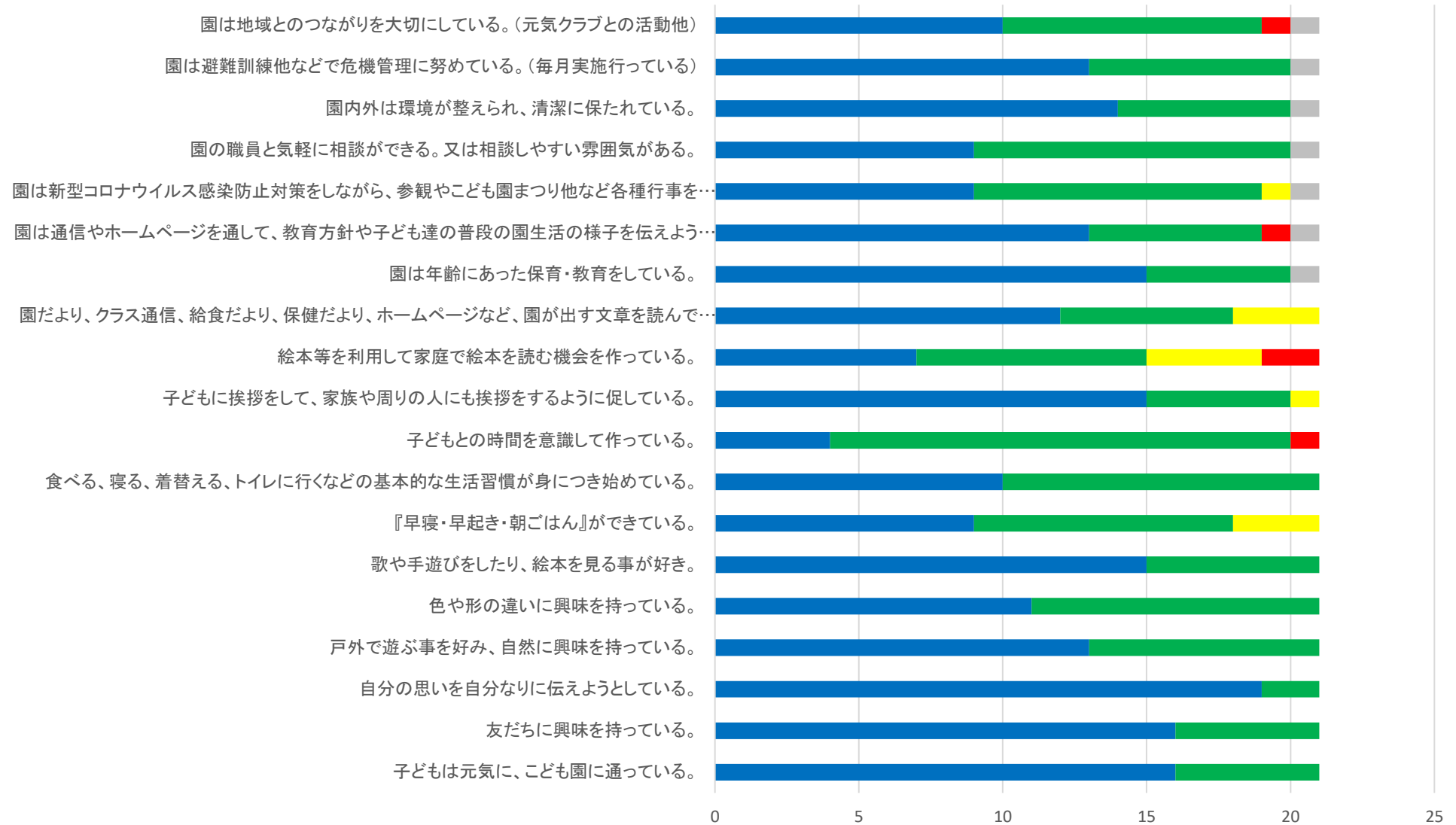
保護者(どんぐり組)

■ とてもよくあてはまる ■ だいたいあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない ■ 無回答



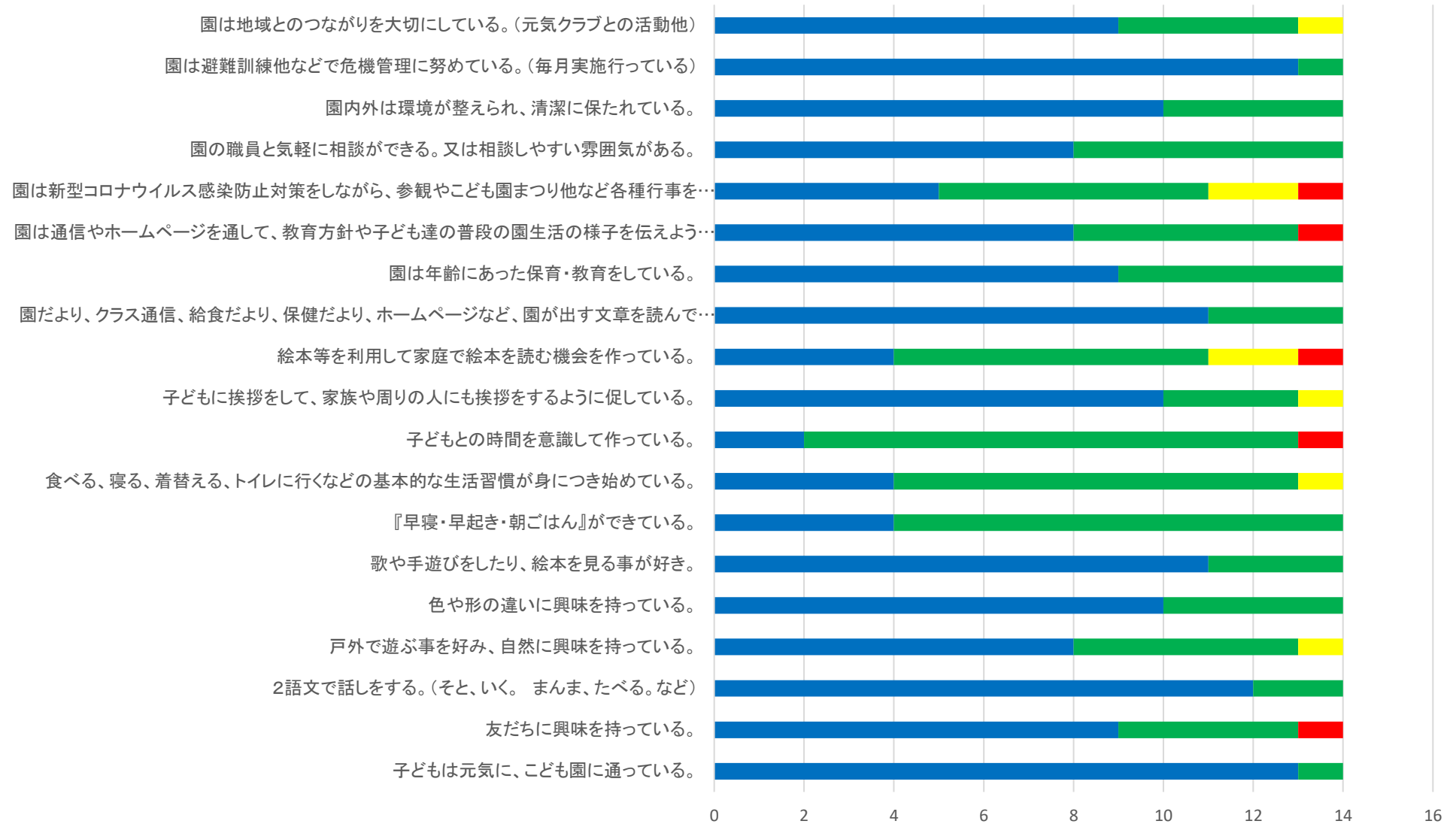
保護者(こえだ組)

■ とてもよくあてはまる ■ だいたいあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない ■ 無回答



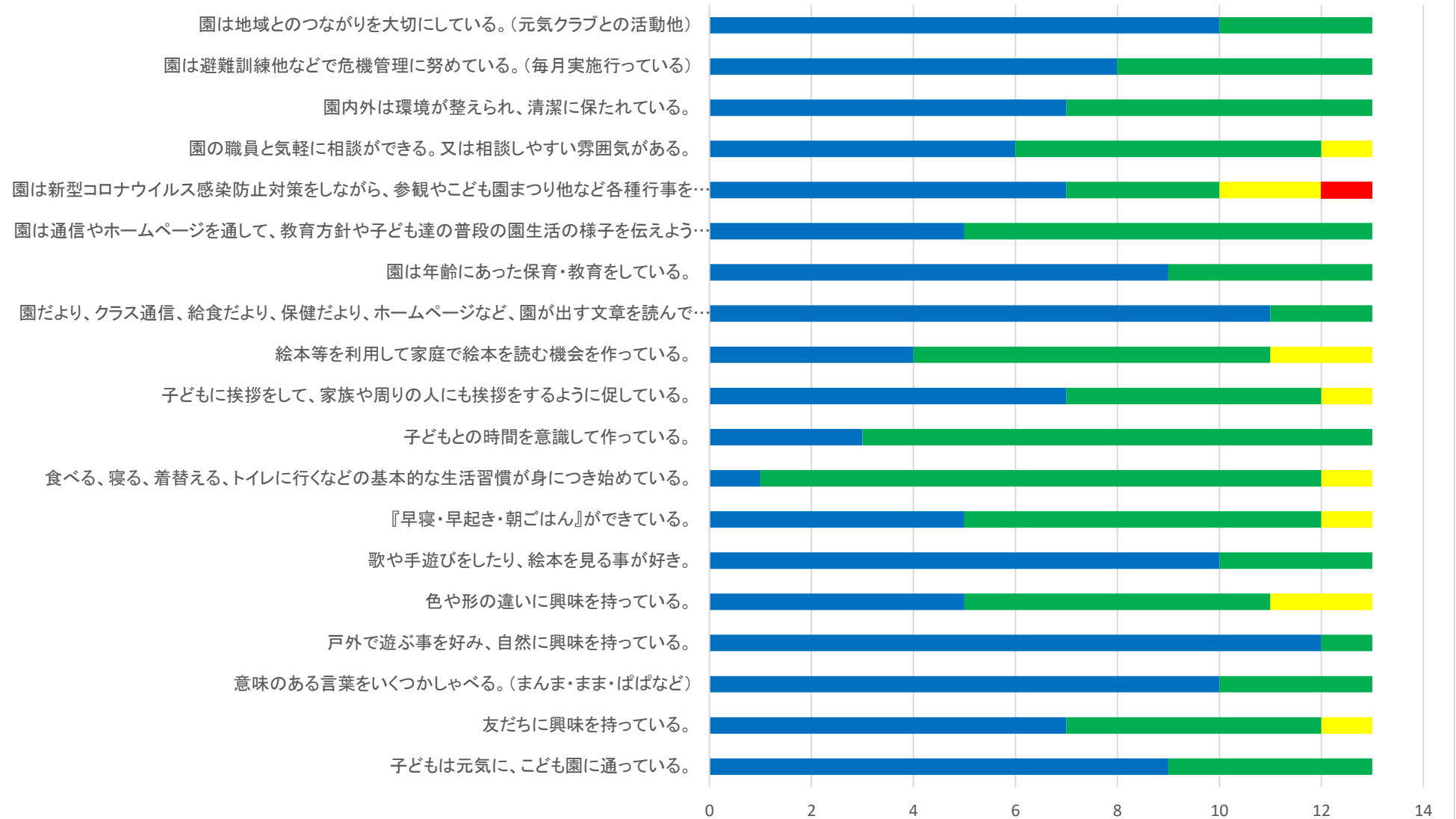
保護者(はっば組)

■ とてもよくあてはまる ■ だいたいあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない ■ 無回答



保護者(きのこ組)

■ とてもよくあてはまる ■ だいたいあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない ■ 無回答



令和3年度 認定こども園いちじまこども園 こども園評価の結果

No.	評価の項目	達成 状況	自己評価		自己評価の観点に対する 評価委員の評価
			・ 成果	○課題	
I	教育・保育の充実	B	- 子どもに必要な学びを研究するため、主体的な遊びや環境作りについて討論し改善してきた。環境を充実させ一人一人の子どもが自ら遊ぶことができるように適切な対応を心掛けて取り組んできた。 - 絵本の活用は月刊誌、大型絵本を購入し工夫して読み聞かせをおこなった。 ○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の達成のため教育・保育を進め、小学校との連続性を加味した指導計画の策定について更に研修を深める。 ○絵本等の利用の啓発や紹介、読書の意識を高めるよう努めていく。	- 教育・保育計画、記録の仕方を今後も試作しながら、子どもの姿から立案、計画を立てていく。子どもの興味に沿った教育・保育につながるように展開していく。 - 季節や子どもの発達に応じた絵本等を選定して読み聞かせや個々の興味、関心を引く絵本等も増やして家庭にも読書への意識が高め、豊かな感性と表現力の芽生えを養っていく。	5歳児アンケートからは行事、自然、友達に対する興味、関心が高く、肯定的な回答で100%を占めているものが多い。前年度踏襲ではなく、その年の子どもの興味関心実態に応じた工夫がなされているためだと思う。環境を充実し一人一人の子どもに寄り添い、方策も素晴らしい。絵本等の触れ合いを大切に、豊かな感性と表現力の芽生えを養ってほしいと願います。
II	健康支援及び 衛生管理	B	- コロナ等の感染症対策に努め衛生的な生活環境の保持と健康維持に取り組んだ。マニュアルを作成していたが、次々と新しい対応に追われた。 ○園や保護者へ日々健康的な生活についての啓発、また心身の健康について更に取り組みを深める。	- 園児や職員が健康的に生活できるよう衛生管理を進め、安全な環境を整え意識や知識の向上を図る。 - コロナの状況を見ながら感染予防活動等を積極的に取り入れていきたい。	可能な限りの感染防止がされていた。対応が変わっていくことは当然であり、感染についても最小限にとどめられたことが評価できる。日々の体調管理も家庭と連携して取り組まれていたと思います。
III	食育の推進	B	- 食事のマナー定着と食欲増強に努めた。黙食に心がけ個々に丁寧に対応して偏食の改善にむけて取り組んだ。マナー等を見直し確認を行なった。 - 元気クラブの協力の中、計画的に野菜の栽培や収穫ができた。しかしコロナ禍でクッキング活動は減少した。 ○今後も園と家庭との連携の中でマナー定着の推進を進めていく。	- マナーの実態を知らせることで、園と家庭が協力し合って定着できるように継続していくことが大切である。 - コロナ感染状況をみながら、コロナ以前のように元気クラブと栽培を通しての交流や行事等にも積極的に取り組んでいきたい。	食に対する喜び楽しみが身につく取り組みが多くなされている。本来役割を担うはずである家庭への啓発は必須である。調理員アンケートからは、細やかな配慮を徹底されていることが伺われる。以前のような元気クラブとの交流が再開できることを望みます。
IV	災害への備え及び 安全管理	B	- 災害時の備え、関係機関との連携体制や安全管理計画の見直しを行なった。 - 大災害等を想定した地域企業との連携と初期消火訓練の実施、また非常食の使用方法的確認や実際に試食もできた。 ○交通及び生活、安全について、教育・保育の指導計画に具体的施策を反映していく。 ○経年劣化が進んできており、計画的に施設修繕を行う必要がある。	- 自然災害等にむけて本格的な炊き出し等を実施し、いざという時に備えての訓練を実施していく。 - 安全確保のための施設、整備等の管理を確実に行う。 - 老朽化してきた修繕や器具備品等の更新を計画的に行う。	様々な危機を予測し、毎月の訓練や研修がされている。時間を様々な替えより実践的に行っていることを評価します。家庭でも日頃、想定した訓練をして下さっているお陰で、地震が起きた時、その訓練を自ら自分で行い頼もしかった。
5	子育て支援 ・保護者支援 ・地域子育て支援	B	- 個々の保護者へ、より慎重で丁寧な対応や説明を行った。 - コロナ禍で地域の支援ができにくい状況の中、話す場の提供や訪問、通信を通して保護者の思いを受け止める態勢作りをした。 ○支援は全体や個別の対応が必要である。保護者の意識づけが大きな課題である。	何時も慎重で丁寧な対応や説明を心掛け、生活習慣等の改善がみられるように取り組む。問題のない時ほど声掛けが効果的であり、保護者の理解や協力が得られ易い。保護者の願いや思いを受けとめ支援につなげていく。	通信や連絡ノート等で園の様子がよく伝わっている。丁寧に日々の事を伝えてもらい、保護者も心強く有難い。しかし業務改善で多忙を極めてあろう職員の負担を軽減していく方法を考えていかれたらよいと思う。
VI	人材育成	B	- 常に高い意識を持ち、自身の保育行為や言葉かけに注意しながら主体的に職務をおこなった。 - 勤務について調査及び面談を行い個々の職員の状況把握に努めた。 ○丁寧な教育・保育及び効率的な園務処理の実現のため職務の業務改善・スリム化を図る。	- 職員の専門意識を高め、自己肯定感、自尊心をもてる言動を研究、実践する。自ら人権感覚を磨き研修に取り組んでいく。 - 効率的な職務と働き方改革を目指して実行していく。	部会の活動報告が具体的で系統的があり、業務の中で育成が可能になっている。参観時にも複数で保育にあたられるチームワークの良さが感じられた。日々、更に向上する気持ちが素晴らしいと感じた。
A=概ね良好 B=やや改善 C=要改善 D=再教育					
保護者の意見からみる課題				評価委員の意見	
コロナ禍で行事等の制限の中、子どもにとって何が必要なのかを考えるきっかけとなり、外から見えることだけでなく育っている内面を色々な情報伝達で保護者に伝え、信頼関係をつくり安心できるよう取り組んでいく。自然教育を通しての教育・保育について理解を得ている。今後も更なる実践を行う。				園の環境や人材を活かした特色のある教育・保育がされている。保護者からの評価の高く、子どもが、園が楽しいと感じていることが何よりである。更に保護者としてしっかり情報伝達を図れることを望みます。職員も生き生きと活動され組織的に運営されていることが見てとれた。	
自己評価とこども園評価による課題解決のための次年度からの改善方策					
◎社会に対応できる生きる力の基礎を培うため、安全・安心な環境による教育・保育の推進とマネジメント能力の向上と職員の意識改革に取り組む					
1 教育・保育の質の向上		園児が主体的に活動するよう、自然環境をはじめとする「環境」を通した教育・保育を計画し更に実践する。			
2 健康及び安全		小学校との連携を図り、小学校教育につながる「アプローチプログラム」を策定する。			
3 子育て支援		感染症対策を強化し感染防止に努めるとともに関係機関との連絡体制を整え家庭にも協力を図る。			
4 人材育成		畑で野菜を栽培するなど食育に関して元気クラブの協力を得て直接体験を推進し、食を営む力を培う。			
		大災害を想定し、避難確保に関する計画を策定する。			
		家庭との連携の中で子どもの育ちを支援し、保護者や地域の子育て力の向上に資する。			
		子育ての悩みや迷いを軽減する取り組みを実施する。			
		専門性、リスクセンス、職員倫理の向上を図る。(行動指針策定に着手する)			
		働き方改革に向け、職務内容及び分掌を見直し組織力の向上を図る。			
令和4年3月31日					
認定こども園いちじまこども園					
園長 田野 悟					